

長野市芸術文化振興基金助成金 実施報告書

団体名	まつしろ現代美術フェスティバル実行委員会
事業名	第19回まつしろ現代美術フェスティバル- 濡標 (みおつくし)

事業内容

第19回まつしろ現代美術フェスティバル- 濡標 (みおつくし) で、松代藩文武学校、旧松代駅、旧前島家住宅、山寺常山邸、寺町商家で展示を行った。メインイベントとなる「黒潮-Ombak Hitam - When I wake up, I realise I'm dead.」を松代藩文武学校の槍術所で行った。シンガポールを代表するアーティストのザイ・クーニン氏の歌とチャンゴと舞、竹澤悦子氏の箏、石坂亥士氏の神楽太鼓、美術家の杉原信幸氏の舞いによる即興公演と小山利枝子氏の絵画展示によるコントラバス奏者の故齋藤徹氏に捧ぐ公演を行った。アフタートークでは今回のイベントの発端となった故齋藤徹氏とザイ・クーニン氏の2018年に行われた「まつしろの地霊に捧ぐ」から齋藤徹氏という偉大な音楽家についての各々の関係について直前に行われた公演の感想も含めて語られた。出演予定だった久田舜一郎氏は前日に肩を骨折し、残念ながら出演が叶わなかった。

事業の成果

国際的に活躍するアーティストを招き、松代藩文武学校の槍術所という歴史的建造物で公演を行うことで、その素晴らしい木造建造物が、現在も国際的な文化イベントを行うことができるという生きた文化の価値を公演後のトークで再確認し共有することができた。ただ歴史的建造物を守り、展示するだけではなく、現在も、剣術や弓道、槍術の練習を国指定史跡の中で行うことができ、文化的なイベントを行うことができる松代の土地の懐の深さについて訪れた人たちと共有された。アートという新しい文化と安易に観光化に走る土地とは違う松代の歴史文化の誇りをどのように継承していくかについてのさまざまな可能性が生まれた。

今後の取り組み

第20回まつしろ現代美術フェスティバルの開催に向けて、準備を進める。20回目という記念すべき節目に何を行うかを、今年生まれた可能性を検討し、さらなる飛躍に向けた取り組みの準備を行う。

実施状況



(写真説明1) 石坂亥士 (神楽太鼓)



(写真説明2) ザイ・クーニン (歌、舞) と竹澤悦子 (箏) と小山利枝子 (絵)



(写真説明3) 杉原信幸 (舞)



(写真説明4) 松代のまちづくりとアート～歴史のまちを未来へ&アフタートーク